

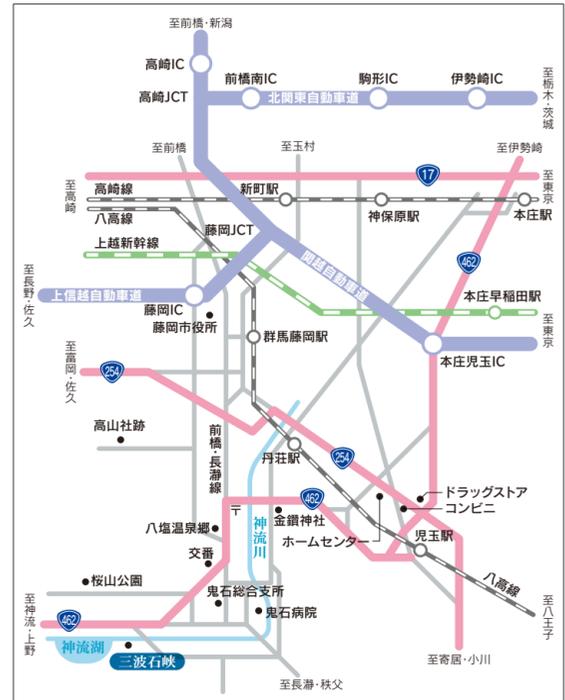


冬桜(国指定天然記念物)

別名をコバザクラ(小葉桜)といい、ヤマザクラとマメザクラの雑種と推定されています。葉は小さく卵形で、春の桜のように一度にパツとは咲かず、白色～淡紅色の一重の小輪の花を、下の方の枝からチラホラと徐々に上の方に咲かせていきます。咲き始めてから1ヶ月くらい咲き続けば、一輪一輪咲くので、散るときも花吹雪になって散ることはあまりありません。寒気が強くなると、木に張り付くように花びらがしぼんでいきます。冬に入り、咲かずに残った蕾は、厳しい寒さ乗り越えたと、春に再び花を咲かせる二度咲きの桜です。



下久保ダム・神流湖
昭和43年、多目的ダムとして造られた下久保ダムは、自然豊かなこの地域にあつて調和のとれた人工美を造りだしています。堤体の長さはコンクリートでできたダムの中では日本最長です。神流湖は、春には桜や岩つつじ、秋には紅葉が映し出される美しい湖です。四季を通じてボート遊びやへらぶな・ブラックバス・わかさぎなどの釣りが楽しめます。



ACCESS

- お車の場合
関越自動車道 本庄児玉ICから約40分(20km)
上信越自動車道 藤岡ICから約40分(20km)
- 電車・バスの場合
上越新幹線 高崎駅下車→JR乗り換えて下記の最寄駅
本庄早稲田駅下車→タクシー利用 約35分
JR高崎線 本庄駅下車→バス利用 40分(20km)で鬼石市街地
新町駅下車→バス利用 35分(16km)で鬼石市街地
JR八高線 丹荘駅下車→バス利用 20分(10km)で鬼石市街地
群馬藤岡駅下車→バス利用 25分(14km)で鬼石市街地
→三波石峡までタクシーで約10分

巨石・奇岩が並ぶ国の名勝「三波石峡」

三波石峡は、緑色片岩と呼ばれる緑色した巨石、奇岩の転石が造形的な美と色調の美が相まって素晴らしい風景を造りだしています。

古くは江戸時代の初期から庭石として珍重され採石されたため自然の状態では現存するのはここだけとあります。峡内の名石には名前が付けられていて、昔はここを訪れる旅人の案内を生業にしている人もいたようです。

また、地質学的にも大変有名です。御荷鉾緑色岩類や三波川結晶片岩類が帯状に分布するこの地層は三波川帯と呼ばれ、関東地方から九州地方まで長さ約800kmにわたって続いており、世界的にも連続性の良い変成帯であることから盛んに研究が行われています。三波川帯の変成岩は、地下深くで比較的低温で高い圧力を受けて変成したと考えられています。もともとはフィリピン方面の海底火山の活動により噴出した溶岩が、プレートの動きによって地下深く潜り込んで変質(変成)し、隆起して地上に現れたものです。

見事な風景であるための「名勝」として、学術的に貴重なことから昭和32年7月3日国の名勝及び天然記念物「三波石峡」の指定を受けました。三波石は三重県の夫婦岩や徳島県の大歩危・小歩危でも見られますが、名前の起こりはここ藤岡市譲原の地とあります。



お問い合わせ先

藤岡市経済部商工観光課
〒375-8601 群馬県藤岡市中栗須327 TEL.0274-22-1211 FAX.0274-24-4414
E-mail:syoko@city.fujioka.gunma.jp

藤岡市鬼石総合支所 にぎわい観光課
〒370-1492 群馬県藤岡市鬼石170-1 TEL.0274-52-3111 FAX.0274-52-4857
E-mail:o-sanken@city.fujioka.gunma.jp

HPアドレス■<http://www.city.fujioka.gunma.jp/>

作成協力●

独立行政法人水資源機構下久保ダム管理所・藤岡市三波石保存会



水と緑が織りなす溪谷美。

さんばせききょう 国指定名勝及び天然記念物

三波石峡

群馬県藤岡市

三波石峡48石

国指定名勝及び天然記念物

「三波石48石」といわれる三波石の名石がV字渓谷に連なります。三波川変成岩と呼ばれる岩と神流川の流れや洄りが織りなす景観は、まさに自然のつくりだした芸術です。テレビや写真のようなメディアのない江戸時代の人々が感じた世界を想像しながら散策してみてください。



1 1-A 一番石 最も下流にあり、一番石から三番石まで合わせて押し寄せる波に見えます。
1-B 二番石
1-C 三番石



2 白晝石 美しい縞模様が生きており、一日中見ていると飽きないことからこう呼ばれるようになりました。
6 竜巻石 弘法大師の描いた竜の絵を川に投げたら、竜が躍り出て、この石に巻き付いたと伝えられています。



3 築山石 昔は「坪石(つばいし)」と呼ばれていました。岩の上に松があつて庭園のように見えたことからこの名が付けられました。
7 手水石 神社の「手水」のようなへこみがあります。どんな日照りたときでも枯れないので、雨乞いに使ったと言われています。



4 碓石 岩盤状に細長いへこみがあつて、弘法大師が竜の絵を描くために墨をすった所と伝えられています。
8 獅子石 形が獅子(ライオン)に似ているために付けられました。



5 駒足石 平将門が馬を乗り入れた際にへこんだものと伝えられています。
9 夫婦石 尖った石が男性を、くぼんだ石が女性を意味しています。



14 鱧石 上から見るとナマズに似ています。釣り人が魚を持って通りかかるとねだると言われています。



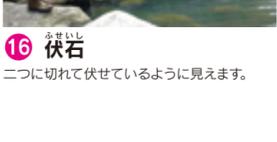
10 茗荷石 ミョウガの花のような形をした石であつたためこの名が付けられました。(現在、上部が欠けてありません)



15 立石 立っている山のように見えます。



11 釣舟石 釣り舟の形をしています。



16 伏石 二つに切れて伏せているように見えます。



17 蛇腹石 褶曲(しゅうきょく)が波を打ち、蛇の腹を表しています。



18 護摩壇石 神泉の矢納地区にある榎早(ナギハヤ)不動尊の護摩を焚く「護摩壇」として使われていた場所と言われています。



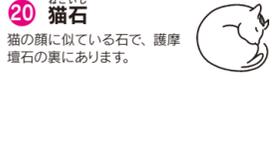
23 釜石 上から見ると羽釜(はかま)の形をしている鍋模様があります。



19 法螺貝石 「がま石」や「こうもり石」の別名もあります。護摩壇石の横にあります。



24 富士石 頂上に火口のような穴があり、溶岩が流れ出ているように見えます。



20 猫石 猫の顔に似ている石で、護摩壇石の裏にあります。



21 稚児石 神楽の稚児舞(児童の舞)の形をしています。



22 五色雲石 黄、青、白と色とりどり美しい石です。



25 白藤石 白い藤の花が下がついているように見えます。



28 綾糸石 白糸が絡まる模様をしていて美しい石です。唐糸石とも言います。



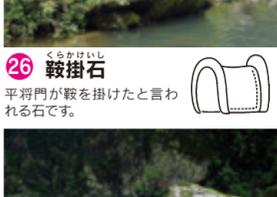
29 真座石 敷きゴザの模様をしています。



27 亀石 亀の首の形をしています。



30 象牙石 象の形をしています。表面の質が細かく、ソウの肌にも似ているため「象毛石」とも言われています。



31 姥石 乳房の形をしています。



32 扉石 昔は屏風石と呼ばれていましたが、改名されて扉石となりました。



33 達磨石 白っぽい石の一部が茶色がついた石で、現在は倒れています。



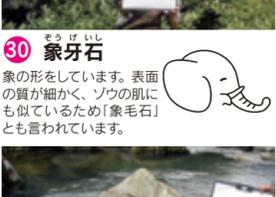
34 蓮座石 仏道が乗る「蓮座」に似た、ハスの花のような凸凹があります。



35 達磨大師坐禅石 大師が座禅を組んだ姿に見えます。



36 屏風石 屏風のようにそり立つ岩。昔はこの岩が水に隠れると洪水避難の目安になりました。



37 破風石 屋根の破風の形をしており、弘法大師が訪れたとき、夕立が降り出したらこの石がかぶさって雨を防いだと言われています。



38 寶石 破風石の下にあり、宝が隠してあると言われています。



39 曼陀羅石 曼陀羅の模様が見えると言われています。



40 不動石 不動明王の背後にある火焰のような模様が見えます。



41 白糸石 白い糸を掛け流したような模様があります。



42 編掛石 白網を掛けたような模様があります。



43 兜石 兜の形に似ています。



44 茶盆石 上面にお茶盆の形をしているへこみがありましたが、現在は裏返しになっています。



45 袖石 片袖のたもとの形に見えます。模様の大変美しい石です。



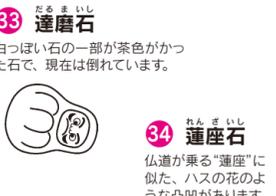
46 鐘石 白い格子が鐘の模様に見えます。



47 舟石 大波を乗り越える舟のへさきに見えます。



48 阿弥陀石 阿弥陀仏のように見えます。



43 兜石 兜の形に似ています。



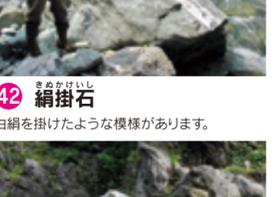
44 茶盆石 上面にお茶盆の形をしているへこみがありましたが、現在は裏返しになっています。



45 袖石 片袖のたもとの形に見えます。模様の大変美しい石です。



46 鐘石 白い格子が鐘の模様に見えます。



47 舟石 大波を乗り越える舟のへさきに見えます。



48 阿弥陀石 阿弥陀仏のように見えます。